

## 加藤登紀子さんら、日本酒の未来語る 多可で催し

高級酒米・山田錦発祥のまちをPRする多可町が7日、同町中区中村町のベルディーホールで「山田錦・日本酒フォーラム」を開いた。10月1日に同ホールである「加藤登紀子日本酒の日コンサート」に合わせて企画され、歌手の加藤登紀子さんや酒造メーカー、山田錦生産者ら8人が、日本酒や農業の未来について意見交換した。

加藤さんは1993年から毎年コンサートを開く。町内で栽培した山田錦で仕込んだ純米酒は、加藤さんが1年ごとに命名し「登紀子ブランド酒」として販売されている。

フォーラムでは、日本酒輸出業者が「フルーティーでさっぱりとした吟醸酒が広まり、海外では日本酒人気が高まっている」と、ニューヨークやローマ、上海のバーで日本酒が飲まれている写真を紹介。JA関係者も「酒造メーカーは吟醸酒や純米酒の生産に力を入れ、酒米として評価の高い山田錦の増産を求めている」と応じた。

酒造メーカーが「わが社には44年間置いた日本酒がある。50年後か100年後か分からないが、最もおいしい時期に商品化を考えている」と日本酒の奥深さに触れた。加藤さんは「日本酒ブームは日本文化を世界に広める良い機会になる」と締めくくった。





今年の登紀子ブランド酒を「愛を耕すものたちよ」と命名した加藤登紀子さん（右）と戸田善規町長＝多可町、ベルディーホール